



## はじめに

卒業生が主体的に活動に取り組み始めた2019年から、あっという間に3年の月日が経ちました。振り返ると、槻の木高校同窓会にとっても苦難の期間になったように思います。卒業生にとってもっとも大きなイベントである13期生、14期生の「二十歳の集い」が新型コロナウイルスの影響で中止となり、同窓会の存在意義である卒業生たちの親睦の機会が奪われてしまいました。

13期生、14期生の卒業生は、最後の最後まで実施の可能性を探りながら一生懸命に準備をしてくれました。しかし、最後は彼ら自身の判断で中止を決定しました。本当に辛い判断だったと思います。同窓会会長の願いとしては、どこかのタイミングで二十歳の集いのような機会を提供したいと考えています。

同窓会の役員会、幹事会の実施の在り方も大きな変化がありました。ほとんど全ての会議はオンラインツールを使って実施するようになりました。それにより、子育てをしている方や、関西以外に住んでいる方にとって、参加するハードルが少しだけ低くなったように思います。ぜひ、卒業生の方にも同窓会の活動に気軽に参加いただくと嬉しいです。

同窓会役員会にも新しい仲間が加わり、より活発に活動ができるようになりました。まだ、これが槻の木高校同窓会だ!と言えるような組織ではありません。しかし、この仲間と一緒にワイワイガヤガヤ、文化祭や体育大会の前日のような高揚感を味わっていただけるようになればと考えています。ぜひ、皆さんの参加をお待ちしております。



槻の木同窓会  
会長 西 真一郎

4期生で会計を務めている三谷です。高校時代は野球部のマネージャーをやっていて、槻の木高校には多くの思い出があります。随分前のことにはなりますが、当時お世話になった先生からお声がかかり、同窓会と関わるようになりました。そして2019年、同窓会を卒業生の力で動かしていこうという取り組みが始まり、今まで縁がなかった会計業務を担当させていただくことになりました。

外部監査人である河嶋元理事長のご指導もあり、4年目となった今、同窓会の基盤ができてきました。年に2回行っている会計監査も、自分発信で行えるようになりました。

コロナ禍である今は、2ヶ月に1度のペースで、主にオンライン上で会議をしています。中には子育て真っ最中のメンバーもいて、お子さんの成長をみんなで見届けております。私自身も結婚し、昨年の夏に新居を構え、再び高槻市の住民となりました。会社では中間管理職として忙しく働いている中、思い出のある高校と今でもこうやって関わりがあることを大変嬉しく思います。

昨年の2月には、15期生の山田さんが新たに役員会のメンバーとして加入しました。フレッシュな山田さんに加え、パワーアップした同窓会をこれからもよりよくお願い致します。

在校生、卒業生、槻の木高校に関わる方々に色々還元できるように頑張っていきます!



会計 4期生  
三谷 玲美

## Newcomer

昨年度から新しく槻の木高校同窓会15期生の理事を務めさせていただいている山田大夢と申します!

2019年度卒業になりますので、年齢はちょうど20歳です。大学では公共政策学を専攻しており、特に政治思想史と道州制などに強い関心を持っております。

統計や数理予測を立てようとするたびに「もっと高校時代に数学をまじめに勉強しておけばよかったなあ」と少し後悔はしているものの、楽しい日々を過ごしております。

さて、話は変わりますが、私はこの理事という役割を担う以前は全くと言っていいほど同窓会に関心がありませんでした。しかし一度役員になってみると、高校時代の懐かしい思い出が溢れてきて、皆さんにもこの気持ちをお届けしたいという心境になり、今は楽しく同窓会活動に参加させていただいております。

同窓会の主役たる卒業生の皆さんにも槻の木高校の思い出に浸っていただけるよう、その場を積極的に提供できる同窓会にしたいと考えております!どうぞよろしくお願い致します。



15期生  
山田 大夢

# 卒業後に 学校を訪れる



卒業してから、槻の木高校を訪れた人はどれくらいいるでしょうか？  
もしかしたら、ほとんどいないのかもしれませんが。  
今回は学校をお願いをして、特別に先生たちとの打合せ後に校舎内を見学させていただきました。  
すこしでも槻の木高校での学校生活を振り返る機会にさせていただけると幸いです。

1



山田は駐輪場(食堂横)を見るなり、何の思い入れもない自転車に近づき「うわぁ、なつかしいな」と自転車を見つめた。

2



山田は「下駄箱ここでした」と口にした。15期生の彼が卒業したのは一昨年のことである。もちろん1期生である西の記憶には、スリッパの色しか残っていなかった。

3



4期生の三谷は下駄箱を見ながらなにかもの思いにふけっていた。淡い思い出を振り起こしているのか、それとも…？

4



山田はおもむろに食堂横のベンチに腰掛け「ちょっと疲れましたね」ともらす。その横にいた1期生の西と、2期生の奥田は、無邪気な学生の一言に、そっとこぶしを握り締めた。

5



ここでも山田は、無邪気に「この位置でした」と鮮度の高い記憶をもとに誇らしげに話し始める。一方西は、教育自習で担当の先生に叱られたことを思い出していた。

7



1期生が高校生の時、森先生のクラスだけに掲示されていたこのフレーズが引き継がれていることに驚く。受験会場には一人で行ったことを西が雄弁に語ると、奥田が「そういうことではありません」と、優しくつぶやいた。

8

教材などを置いておくためのロッカー。高校入学と同時に与えられた、小さなプライベート空間。



6

また三谷が席にすわるなりなにかを思い出している様子。しかし、きっとこれも前日の夜勤によるものだ。彼女は4期。山田とはひとまわり違うのだから。



9



食堂。島上高校生がいたころはいつも先輩たちがこのあたりにいた。先輩に緊張してしまい、ここには座れなかったことを西は思い出した。

10



グラウンドに抜ける道とる2人。元氣な山田と、遅れをとる西。

11



3期1年半という長い間、生徒会長を務めた西がそのころを思い出す。まさかその後15年以上も同窓会長を続けるとは、夢にも思わなかった。

13



お邪魔しましたので最後はみんなでモップ掛け。青春を感じました。

12



開校して3年目に完成した校歌。

数年ぶりに母校の校舎を歩きいろいろな事を思い出しました。変わったところ、変わらないところいろいろありますが、そのころを思い出し、この場所が結構好きだったことを思い出しました。

